

「若いも若きも子どもたちも一緒になって楽しもう！

～未来を担う人材育成～

雲南市 下熊谷交流センター

1 下熊谷地区の概要



- ・人口：1,126人 ・世帯数：424世帯
- ・高齢化率：24.8% ・自治会加入率：67%
- ・自治会数：10

北側は近年商業地となり大型スーパーやアパートが数多く建ってにぎわっている。近年、国道近くには新築も多いが、アパート住まいの世帯など自治会未加入が増えている。

一方、南側は独り住まいの高齢者も多く、高齢化率は36%と高い。

木次小学校に在籍する子どもは70数名で全児童数の35%を占める。ふれあい会事業の参加も若い世代の参加者が少なく、若い世代と50代から70代の住民との交流の機会があまりないという課題がある。

2 事業の趣旨

平成29年度の子どもの会の保護者を対象としたアンケート調査では、子どもの様々な体験活動（親子活動等）に子どもだけ参加が45%、親も子どもも参加したことがない19%で約65%の保護者が参加したこと

がない状況であった。また、餅つきや笹巻作り等食に関する内容を行なってほしい意見が多かった。

そこで、子どもの参加を中心として行ってきた事業を、地域の人たちと保護者世代が関わりをもつ場に変化させることによって単なるイベントから、保護者世代が地域への関心をもち、少しでも地域への関わりを増やしていけるきっかけづくりとすることを目的として取り組んだ。

3 具体的な取組内容

(1) 保護者が主体的に関わる仕掛け

これまで子ども中心の活動としていた、しいたけほだ木づくり・そうめん流し・クリスマス会・三世代交流餅つきを、小学校PTA役員や子ども会、地域の老人会「寿会」への協力を依頼し、準備から当日の活動、片付け等を子どもと地域の人、保護者世代が交流する場としていく。同時に保護者が主体的に活動できるように変化した。

ア そうめん流し

夏休みの1週間を「交流センター子ども週間」とし、そうめん流しの竹を山へ行って切る～流す樋作り～竹の器、箸作り等の準備を継続して実施。子ども達はもちろん保護者自身も経験したことがないこと（竹を切り倒す、縦に割る）を寿会の方に教えてもらいながら経験した。



●そうめん流しの準備

イ しいたけほだ木づくり

収穫したしいたけを保護者が中心となって考え、干しいたけに加工し、クリスマス会、餅つき of 事業に生かしていくことで、これまでにない世代間のつながりが構築できた。



●クリスマス会（しいたけスープ作り）



●餅つき（しいたけ入りピザ餅を作る）

(2) 「保護者有志の会(仮)」の立ち上げ （きっかけ作り）

小学校PTA役員や子ども会役員、その他の保護者に声掛けをして、秋、春に収穫できるしいたけをどうして食べるのかを保護者が中心となって考え、取り組んでいくようにする。



●会議の開催（全6回）

活動してきたことを地域の人や他の保護者に理解してもらったり、周知するためにクリスマス会では「保護者有志の会(仮)」の活動をパワーポイントと寸劇によって発

表し、センター職員も一緒になって発表するなどの支援を行った。



●クリスマス会

4 評価と成果

- (1) 子ども中心の事業に保護者の参加が増え、寿会や地域の人との関わりが増えた。また、保護者同士の交流の機会にもなった。
- (2) 企画を任せることで保護者の主体性が生まれた。そして、「保護者有志の会(仮)」が主体的に事業に関わったことによって、地域の一員として、地域をより良くしようという意識が芽生えてきた。

5 今後の課題と見通し

- (1) 今後も「保護者有志の会(仮)」を中心とした活動をより広げ、深めていくよう仕掛け作りをしていく。
- (2) スポーツ少年団と事業が重なり、子どもの参加が少ない事業があったので、子ども会、スポーツ少年団との連携強化が必要である。
- (3) 地域活動の必要性を感じる機会を増やし、自治会加入へとつながっていくように、アパート等自治会未加入の保護者の参加を促進する。
- (4) 保護者世代がふれあい会の他の事業への参画に波及させる仕組みづくりをしていく。

（文責：生涯学習推進員 菅田敦子）